ペルソナ4　もう一人の主人公

貧弱戦士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ペルソナ４　もう一人の主人公

【Ｎコード】
Ｎ６４１６Ｙ

【作者名】
貧弱戦士

【あらすじ】
世界はつまらん、いや面白くない。そんな考えを持っている青年、『鳴神　宗吾』。彼は両親の都合により、田舎の八十稲羽に１年間住む事となった。そして彼の想像を超える物語が動き出した……
（本作の主人公は女体化となって、妹となって出てきます）

プロローグ

一言言おう

世界はつまらん。いや、面白くない。え？　同じだってか？　同じじゃねぇよ

つまらない人生に面白くない人生、それが交差するのが現実（リアル）だ。平凡で平凡で平凡で平凡で平凡で平凡で平凡で平凡な世界

世界は広い、だがパターンが一緒だ。朝やるニュース番組。デカイ事件、目が離せない事実、だが……それはほとんど他人だ

他人が目立ち、それを引き立てる俺達

クラスで一時期人気者となり、日に日に成長をしていくうちにその称号は無くなる

本当、世の中はつまらん事ばかりだ。祭りや行事やその他色々な

けどそれでもこの世界で生きていたいと思う。何故かって？　死ぬのが嫌だからだ

「兄さん、さっきから上の空だけど大丈夫？　頭が」

「おい、言いすぎだボケ。兄さんじゃなくてお兄たまと呼べ」

「嫌だ」

「即答だなおい！　たく……本当に何て妹を持ったんだ俺は」

「そんな事言わないでよ。母さんが生んじゃったんだから。原因は父さんだけど」

そんな事、電車の中で言うなよ……あぁ～、考えるのが面倒くさくなった

俺の妹は何でこう……こう、アレなんだよ？　言いにくいんだよ、こいつは。何考えているのか、昔からわかんねぇし

『八十稲羽～八十稲羽～』

「兄さん、もう着くから荷物持って。そして頭の活性化して」

「相変わらず毒舌だね妹よ！？　俺がいつも頭が朝起きてあくびしている最中の頭だと思っているのか」

「いや、普通に子供でシスコンで変態な頭を治してほしいから」

どうしよう、新たな新天地に着く前に心が壊れそうなんだけど

心の涙を流しながら重たいバックを二個持ち、扉の前で開くのを待つ。そして『プシュ～』と音をしながら扉は開き目的の所に着いたので俺達は降りた

そして電車はそのまま次へと進み、駅から出た

「あれそうじゃないのかな？　兄さん」

「あぁ。写真で見るよりか髪が似合っているな……」

「兄さんの感想は置いておいて「置くなアホ！？」何、馬鹿な兄さん」

「すみません、もう心の涙がだんだん漏れてきました……」

俺は荷物を持ちながら、上着を片手で持っている男の人と、小さな可愛らしい女の子の所へと向かっていった

「待っていたぞ。えぇと……鳴神　加奈ちゃんに宗吾君かな？」

こうして俺の新たなる物語は始まった。だが……まさか此処までハードな物語とは、世界中誰も思わなかった

そう、此処から始まった一歩だったのだ……

プロローグ（後書き）

感想をください！

01　始まりの日

「しっかし義兄さんも姉さんも仕事一筋だな。1年だからって、こんな所に来るなんて」

「いえ、もう慣れてますから」

妹が言うように俺達は慣れているんだ

突然『転校』するなど『引越し』など聞かれても、へ～そうなんだしか聞こえない

そう、『慣れ』とは怖いもの。他人との価値観が違うのだ。けど、文句は言えない

俺達があっての親なのだから。此処まで生きていらるのも親なのだから

『仕方ない、残念だ』。本当に仕方なく、残念だ。転校するたんびに。そして昔から

「堂島さん……」

「ん？　何だ」

俺は右手を上げ、目が潤みだす。そう答えは簡単だ

「吐きそう……うぷ」

「うぉ！？　此処で吐くんじゃねーぞ！！？？　奈々子、袋はねぇか！？」

「ど、何処にもないよ！？」

「兄さん！！　頑張って溜めて！！　喉に来る『それ』はたしかに嫌だけど、頑張って！？」

「ぜってぇい『ゲ』がつくものは止めろよ！？　さもないと吐くぞ！　天国に羽ばたくからな！？」

車の中は一気にパニックとなった。しょうがないじゃん、電車とか気持ち悪いんだから

あぁ、酔い止め飲めば良かった……この歳でこれはないだろうと想ったが

「いい所にガソリンスタントがあった！！　そこで止めるぞ」

「い、いえっさ～」

口元を両手で押さえ、いまにでも吐きそうな勢いだ

車は速攻にガソスタへと止まり、一目散にトイレへと向かった

やばい、若干漏れている！！？？　目が逝きそうだよ

『ジャー』

「ふ〜、生き返ったみたいだ」

トイレから出て、真顔でそう呟いた。だってガチでやばかったしな

すると隣の女子トイレから、堂島さんのお子さんが出てきた。そして……

「「……」」

何を話せばいいか……話題が出てこない

お互い見つめあい、額から嫌な汗が出てくる。緊張の渦が

……ここは年上から話さなければ

「な、奈々子ちゃんだよね？　俺は鳴神　宗吾。加奈の兄だ」

「え？　弟じゃなかったの？」

「弟じゃないから！？　たしかに精神年齢はアレだよ？　昔から間違われるけど、兄だから！！　みんなのお兄さんだから！！」

奈々子ちゃんの目線に合わせてしゃがみ込み、弟という言葉を否定した

それにより奈々子ちゃんはビクッとして、怖がりだす

「!?　ご、ごめん……お兄ちゃんが悪かった!!　すまん!!!」

「い、いいけど……面白いね」

「お、面白い?　俺が?　このミーが?」

「うん!　お兄ちゃんは面白いね」

その時、俺の中の何かが輝きだした。ぴか〜んと音を出して神様が現れる

背中には天使の羽、頭には黄色のリング。それは奈々子ちゃんだった

決めた……いや運命だ!!!

「よぉし!　今日からは君は俺の妹だ!!　奈々子ちゃん!」

「え……いいの?　わたしが?」

「おうとも兄妹。へへ、マジでいい子だな」

「あ、ありがとう／／／」

あの毒舌妹よりかいい。スッゲェいい

そのまま奈々子ちゃんと話しながらも、車へと戻って行った

すると現場では妹とガソスタの店員が立ち話している。ん？　何話しているんだ

「ん？　君がこの娘のお兄さんか」

「いや、この可愛らしい天使のお兄さんで「ロリコン」違うわアホ！？　俺はみんなのお兄さんなんだから！！」

「はは、ユニークだね。そうだ、ウチ今バイト募集なんだ。この娘にも言ったけど、君にも言っておくよ。よろしく」

「あぁ。暇になったらバイトさせてもらうぜ」

お互い握手し、店員さんはそのまま元の位置へと戻って行った

しかしゴツイ手だったな、一瞬『ゾクッ』てしたよ。鍛えた方がいいかな

堂島さんがタボコをを吸い終わって、皆車の中へと入った

さぁて、ここでの現実(リアル)とは何だろうかね……

おまけ

「そういえば奈々子ちゃん、コッチに来る時このロリコンになんかされなかった？」

「「え……」」

「ん？　そういえば……『今日から君のお兄ちゃんだ』て言われたよ。それがどうしたの？」

「な、奈々子…………おいお前。奈々子をまだ嫁にだすもんかぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！！！！　逮捕してやる！！！」

「ど、堂島さん！？　前！？　前！？　俺達が逮捕されます！！！青い制服の人達に！？」

01　始まりの日（後書き）

感想をください

02　夢と現実

堂島さんの家は普通だった。うん、感想をそれだけです

では……

「就寝！！！」

「何急に？」

俺達は二階に住まわせてもらっている。とりあえず兄妹というわけで、男女が一部屋

これはいいのか？　いや……いいんだ。つかめんどくさくなったから寝よ

明かりを消し、俺は温かい布団の中へと入って目を閉じた

「勝手に消すな」

『ドス』

「げふっ！？」

そう、永遠の眠りへと……

「ん？　はぁ～、もう朝かよ」

「違うよ兄さん。朝でも夕方でも夜でもないよ」

突然眠気が無くなり、目を開けたらそこは深い霧の中だった

服装を変わって何処かの制服となっていた。ん～、此処は何処だ？

「お兄たま怖い！！」

「止めて怖い」

「ガーーン！！！」

「と、それより此処は何処？」

深い霧より深く傷ついたわ～。もう再起不能だわ～。妹が怖いわ～

心の中で愚痴を思った瞬間、さらに霧は深く濃くなってきた。ヤバいって感じだな……

『片方は真実が知りたく……馬鹿そうなのが』

「誰が馬鹿だアホ！？」

俺達の目の前に人影が見えた。そいつは俺達に何かを問いだしているようだ

何で俺だけ馬鹿そうなんだよ！！　俺は天才だ！！

「そうだよ！！　兄さんは馬鹿そうじゃない！！」

「言ってやれ！！　兄妹！」

「兄さんは『本物の馬鹿』だ！！」

『おや？　なら本物の馬鹿「死んでやるーーー！！！」』

何コイツ、こんなに俺を虐めて楽しいの！？　虐め良くない、○○〜。に言うよ！？

それに人影も言う……てアレ！？　何処にも居ないぞ

『君は良くわからん。何を思っているのか……ただ、求めているのはわかるよ。何かをね？　知りたかったら捕まえなよ』

それを言い残し、もう言葉が聞こえなくなった

知りたいって……それに妹は真実というのを知りたがっているし、どうすればいいのか

妹は頭を下げ考えているようだ。しかしそれはすぐに上がった

「行く。私は行くから」

「お、おい！？　どんな罠か知らないんだぞ！？」

「それでも行く。じゃあね」

妹は颯爽と続く道へと走って行った

あぁ～！！　俺はどうすれば！！！　頭を抱え、さらに悩みだす

妹を追うか身の安全のある此処に残るか、最大の選択だった

『あんな奴に愚弄されるなんて、俺らしくねぇ』

また声が聞こえた。だがこの声は身近なに良く聞く声……誰だ

聞こえた方向をゆっくり向く。それは……

『よぉ、俺。始めましてだ』

「……俺だ」

それは仁王立ちして目が黄色の、何処から見てもハンサムな俺だった

驚けばいいのか、どう対応するのか全然わからなかった。今の現状をどうすれば……

『俺はお前だ。……そう、最低な俺だよ』

「あぁ！？　それはどういう意味だ」

『そういう意味だ俺。俺はお前。お前は俺。わかるか？』

「違う！！　そこじゃない！　最低とはどういう意味だ」

『当たり前じゃねぇか？　テメェは……いや俺は愚弄される立場じゃなくて、愚弄する立場だろ？　人をゴミみたいに見て、世界を愚弄する俺だよ？　道化師が』

な、何言っているんだこいつは……！！！　俺は別にそんな事を……！！

たしかに世界はつまらなく面白くないが、愚弄しているつもりはねぇ！！　ましてや人等！！

だがコイツの演説は終わらなかった

『何言っているんだって顔だな。わかりやすい……妹にも嫉妬したよな～、俺は。居なくなればいいっておも「止めろ！！！　そんな事は思ってねぇ！！　失せやがれ！！」……どうせお前は俺自身を必要になる。それまで、何処かに居させてもらうぜ？　じゃあな』

奴は笑いながらも、そのまま何処かへと消えていった。跡形もなく、俺はそこで立ち止まる事しか出来なかった

「……うるせぇよ……グレルぞ」

その一言を呟き、俺は眠たくなった瞼を少しずつ閉じていった…

…そう、この『世界』のお別れをしたくて

「……夢、だったのか」

起きれば、目の前には俺の妹が可愛い寝息をしながら、ぐうぐうと寝ていた

手元にある時計を見てみれば、まだ朝の５時５９分……今６時になった

二度寝をしようとしたが、時間的に止めようとしたので静かにドアを開け下へと下りて行った

「あ、おはよう」

「あぁ、おはようさん」

「早起きなんだね」

「奈々子ちゃんもね。お、朝ご飯作ってくれたのかい？」

「うん！」

マジ天使だわ、奈々子ちゃん。奈々子ちゃんはエプロンを取り外し、椅子に座った

俺も気が付けば腹が減っているので椅子に座った

「いただきまーす♪」

「いただきます」

朝ご飯は目玉焼きに、ベーコンが乗っているパンか……うん、食べると美味いな

しかしこんな幼いのに、三人分のご飯を作るとはな……ん？　三人分？

「あと一人足りないんだが」

「お父さんは無いの。朝早くから、事件って言ってたからもういない……」

「刑事……か。そりゃあ、スゲェお仕事だな」

「うん……」

刑事か、ドラマ的なのを想像するな。奈々子ちゃんは覇気が無い返事をし、呆然とパンに?り付いた

俺は時間を見ながらも早く間食し、持ってきた鞄を手に持った

「あれ？　もう学校なの？」

「ん～、何。散歩しながら行こうかなと……妹の事、よろしく頼んだぞ？　奈々子ちゃん」

玄関で靴を履き、奈々子ちゃんがその手前まで来たので頭をなでなでする

照れたのか、頬を桃色になり嬉しそうな様子だった

「うん！！　行ってらっしゃい」

「おうよ、じゃあね」

さぁてと、此処はどんな所だろうね～？　俺が面白ければ、全てがいいんだけどね

外に出てみれば雨が振っていたので折傘を使い、道を歩いて行った

「あれ？　学校って何処だっけ……？？　あれーーーーーーーーー！！！！？？？？」

奈々子ちゃんに教えて貰えば良かった

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6416y/

ペルソナ4　もう一人の主人公

2012年1月13日01時46分発行